



禊ぎと三貴神の誕生

伊邪那岐命は、亡くなった妻が恋しくて、追いかけて行った黄泉国から逃げかえり、「わたしは、行ってはいけないところに行き、見てはいけないものを見て、けがれてしまった。」と、おおせになり、筑紫の日向の橘の小門の阿波岐原で、川の中に入られ、禊ぎ祓いをなさいました。

まず、つえをすて、衣服をおぬぎになりました。それから、川の中ほどにおすすみになり、水の中にもぐって身や心をあらう清めると、つみ・けがれをおこす神さまや、それを直す神さまが成られました。

つづいて、伊邪那岐命が、左の目をお洗いになると、天照大御神が、ついで右の目をお洗いになると月読命が、さらに鼻をお洗いになると須佐之男命が成られました。伊邪那岐命は三人の貴い神をえられたことをお喜びになり、天照大御神に首飾りをおさづけになつて「高天原を」、月読命には「夜の世界を」、須佐之男命には「海を」治めるよう、お言いつけになりました。